

日刊 動労千葉

85. 1. 12
No. 1837

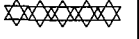
国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二）七二〇七

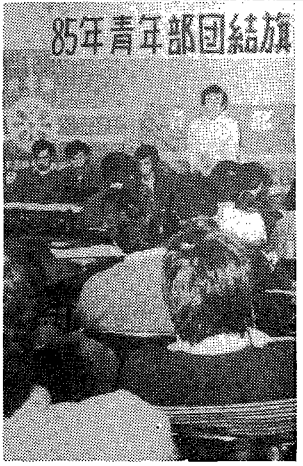
オ2の「81・3」実力決起で、三里塚 —国鉄決戦の勝利もぎとるぞ青年部旗びらき



85年青年部団結旗びらき
「国鉄労働者のド根性を見せてやる。オ2の『81・3』うちめくぞ」
全支部青年部代表は断固たる決意を表明した。



三里塚—国鉄決戦の勝利をきりひらく一九八五年「動労千葉青年部団結旗びらき」は、一月九日、動力車会館ホールにおいて、全支部より九五名の青年部員が結集して意気高くおこなわれた。



85年青年部団結旗
「総転向・総屈服状況つき破り、職場生産点からの断固たる実力決起をかちとろ」
挨拶にたつ田中青年部長。



本部・布施書記長



反対同盟・島村昭治氏

定刻の十七時三〇分には各支部よりの青年部員が続々と結集し、会館のホールはいっぱいになった。集会は、高橋常任（館山）の司会により、繁沢書記長の開会宣言をもって進められた。

冒頭にあいさつに立った田中青年部長は、「八五年、情勢は煮つまった。昨年十二月カールビンソン強行寄港の攻撃と真向うから闘って痛感したことは、このような理不尽・凶暴な攻撃にわれわれ労働者の側から断じて屈服してはならないということだ。正義を正義としてかかげて、弾圧を恐れず実力闘争を貫き闘うこと—今日の日本階級闘争の混迷をつき破るポイントはこのところにある。

東峰十字路裁判で十年・五年・…といった長期投獄弾圧をかけられようと断じて屈服せず実力闘争を貫く反対同盟の魂をわがものとしてこの八五年三月決戦にたちむかおう。国鉄をめぐっては年頭から十三万人の首切りを前提とした『民営化』案を国鉄当局がうち出し、『60・3ダイ改』をその突破口にするといっている。断じて許せない。『60・3』と三里塚二期攻撃を粉碎する三月決戦にわれわれは第二の『81・3』をもって突進し、日本階級闘争の情勢を変えるよ

うな決戦を挑もう。青年部こそその最先頭に立ちたいと決意を明らかにした。

八五年をきり開く旗びらきを終了した。

ぞろいして、「いよいよ決戦の正念場を迎えた。労農連帯の底力を思うぞんぶん発揮して、国鉄労働者のド根性を見せてつける徹底した実力闘争をもって『60・3粉砕—三里塚二期着工阻止』三月決戦に突撃しよう。動労千葉青年部は闘う国鉄労働者の誇りと意地にかけても、断じて中曽根がごとの前に屈服はしない。犠牲・流血をおそれることなく、勝利をめざして、喜びをもつて三月決戦につき進んでいこう。第二の『81・3』を先頭で

きりひらいていく」との断固たる決意をうち固め、会館をゆるがす団結ガンパローをもって、決戦の



青年部団結旗
新藤副青年部長が基調報告
また、田中青年部長のあいさつ、新藤副青年部長の基調報告について全支部青年部長が登壇勢

当面するスケジュール

- 1月12日 動労千葉団結旗開き（13時、労福センター）
- 19日 労働学校第10回講座（13時、動力車会館）
- 21日 県春闘討論集会（於・鴨川）
- 23日 第15回「布施公判」（13時30分、千葉地裁）
- 25日 第2回「鈴木君守る裁判」（10時、千葉地裁）
- 26日 動労千葉弁護団総会（13時、パレスホテル）
- 27日 「東峰十字路裁判—三君を守る会」発会式（15時、動力車会館）
- 28日 関東ブロック春闘討論集会（於・箱根）
- 29日 駅伝大会（9時、天台スポーツセンター）
- 3日 ボーリング大会（10時、アサヒホール）
- 4日 破防法と闘う国民大集会（10時、有楽町中央会館）
- 「6・12」判決公判（10時、東京高裁）